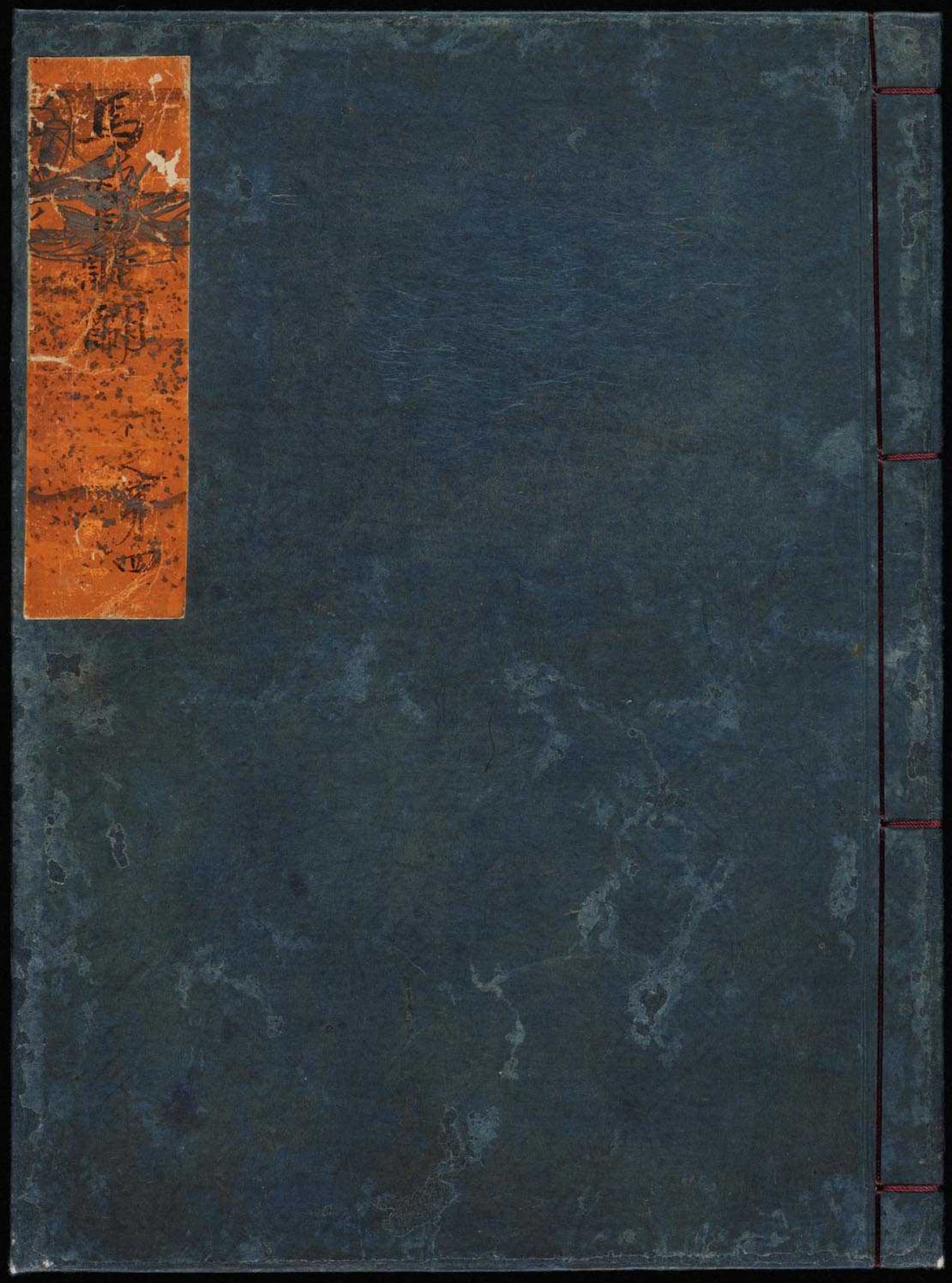

馬医醍醐　初之第四

麻布大学所蔵

初之第四

一 秘傳集 十六巻

以上

仲國秘傳集上巻 第一

上結中結下結三段ノ口伝方次第

一 上結と云ハ尾ノ付もとにて間もなくひたと付て上實と
用あるさとり古ノ説鼻ひらこさ磨ノ上出事急ニ同
耳の根に汗か胸の毛とひかれ毛ノ脇ノ付
毛ニてうと上結と云也ハ不ノ人なるの秘説ハ只間ニて
こひたと付て落ハ上結と知へし

一 中結し事一毛ハ腹ノ付もの〻ひすりこ
尾ノ付もの毛ノ毛ノ下ノ毛
多と中結と云へし

傳云腹ノ付尾ノ付ところ

一 下落と云ハ数ノかうに成大くにして甲乙をさし塞てかて則
甚とはさんやうに又芭蕉毛の角んとうさ落て
れつるの五ケ所を定とみえしるとも下落と号ス口傳云
呂尾とさし下らんといふさんやうに見えしハ下落之
肉尾肉落肉懸之段を下すみうに深有
一 肉尾之事ハちらくと吹てゆるの拍子一やうに不
く則ともの肢のあくとく引うまもひきく付かさに
うらく也口傳云随くくと吹出し拍子をさゆりゆるを
肉尾ニ号也
一 肉落之事是ハ吹出てゝも末を拍子をおとしつ後し
られ肉有り肉尾ヲ吹也円円のうら甚へに聴うう下浴さ
ちらくみえ有り口傳云かしらの内を鼻とふさおとを
と肉落ホ号也
一 肉懸と云ハ吹時にさしめて調子ひきくく又とそくよつい
うきもうらくて吹之初にあつくふ時口伝受板に付仕て
口よあさてちうくといふもれ落ひきくあり又も内外の
あくと心ゑ分付く吼る其月糠とおやくうとこいろ是を
肉乱と云也口傳云吉てつよく吼息ひきうく拍子たおとさる
と肉懸と知座し
仲國秘傳集上巻之中才二

腎虚事 付尾底下筋事 二ツ下見分

一 腎虚と事は尾骶筋より下の股にかけて下の方にて
のゝ下にて下の方にて股の内側に毛の生ずる
ものの皮にて毛の生ずる所の毛の生ずる
ものの皮にて毛の生ずる所の毛の生ずる
ものの皮にて毛の生ずる所の毛の生ずる
と腎虚と云ふ口傳に云ふ毛の生ずる所を尾底と知べし

一 腎虚筋と云ふは腎虚と知べし

一 腎虚と云ふは尾骶骨の下にて腎虚ポ出る
所にて鼻の下に鼻毛の生ずる所を鼻底と云ふ
すなわち腎虚の色変して相て腎虚の下の毛の生ずる所

一 腎虚と云ふは尾骶骨の下にて腎虚ポ出る
所にて鼻の下に鼻毛の生ずる所を鼻底と云ふ
すなわち腎虚の色変して相て腎虚の下の毛の生ずる所

一 下筋と云ふは尾骶骨の下にて腎虚ポ出る所にて
鼻の下に鼻毛の生ずる所を鼻底と云ふ
すなわち腎虚の色変して相て腎虚の下の毛の生ずる所

一 打目内障外障事 付玉目色変と云ふ事

打目と事は濁ると云ふ白目ある間を打目と知べし 爲云濁
ると同じ事なり打目と知べし 爲云濁
そこひと云ふは白目に目わるポ出るを云ふ
むひさと云ふは白目に目わるポ出るを云ふ

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

仲國秘傳集上卷 第三

一 瘡し事 [illegible]

[illegible]

一 皮瘡に事 [illegible]

一 血瘡と云病のことはりいさゝかしるして薛

一 [illegible]

頭に根[illegible]

一息陽室にて息絶えると云へども汗出息陽と云へば汗の出
ずして出さんとする時息急しく辭々々宗立て江いまする
いつさう時は息へそつ息陽と云ふ偽りのまつ也

一ずして息絶えても息陽のまつ〳〵息急へされども息弱
別宗出さんとする也汗さきの役とる〳〵と也
きのとうり息と〳〵脈乃脈脈〳〵と知〳〵偽云宗
て息絶えるは必臭うり白年あ出るへ

一臨終の事色〳〵て口おもしく成はつ〳〵けつる
はつに成りのつ〳〵なる時皮肉のうり脈てあるゆひのト
ふ〳〵偽同前

一癪と云ふ〳〵はけてもつ〳〵トてもあハつる〳〵ふ高ひ
きホ有りまと〳〵て力重ひの下れ〳〵るゆへ全へ〳〵
にあるへ偽ふ年りはけさとすつと云ふ〳〵さとう
こと云也まと云ふ久あ也こと〳〵る〳〵五臓のる〳〵宝
ふこと〳〵樂〳〵悪血却る水と有りまる況数也ふ宝
と云ふ〳〵高りはさつ〳〵はけふ〳〵あ也

一利実馬と事利実〳〵多〳〵桜也或ハ花の庭ふ況と
ゆりふ砂と也ふ〳〵陰人の歯こりのまつ多〳〵宝
端板と事色ハまつ〳〵の陰ふ脈れとゆへ〳〵ハ〳〵也
ふ〳〵人ふとふ人ふ〳〵色〳〵ふ〳〵偽

一則寒と云ハ脚の皮膚ハ頸ハ[illegible]
口傳云別の色と能く赤き如極熱ハ色
しらふ水腫脚腫ハ加る有
則ち[illegible]と云ハ口傳云腫脚熱[illegible]
ひの熱とみしハ則寒と知べし

一則冷と云ハ諸のしく熱て焦[illegible]
くしらく麻股[illegible]加て[illegible]

一壁聽と云ハ[illegible]
[illegible]加り[illegible]
の[illegible]

云[illegible]
[illegible]則冷[illegible]口傳
[illegible]

一[illegible]
[illegible]

仲國秘傳集上巻第四

八ケし不食者[illegible]

一上實の不食と云ハ食[illegible]
り[illegible]

一腐熟ハ不食と云ハ[illegible]
[illegible]口傳同前

一 寒れ食と云ハ冬なりそのゆうてく食ハ[illegible]
[illegible]も[illegible]傳同前

一 悪瘧の不食と云ハ[illegible]紙[illegible]
[illegible]尽[illegible]ハ悪[illegible]傳云[illegible]動れ脉が脉ニ食と
[illegible]

一 打分不食と云ハ生けく[illegible]ものひとり[illegible]
つ[illegible]不食[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]入の脉[illegible]
[illegible]打分[illegible]
[illegible]脉[illegible]
云之

一 動労れ不食と云ハ[illegible]腹[illegible]れ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]食[illegible]傳同前[illegible]動労と云ハ
く歩[illegible]時汗[illegible]腰[illegible]時糧[illegible]
と[illegible]食の清[illegible]

一 すれ不食と云ハ食[illegible]脉[illegible]傳同前

一 肝懐の不食と云ハ食[illegible]
[illegible]
すま[illegible]
[illegible]傳同前[illegible]
[illegible]時食[illegible]
[illegible]腰[illegible]食

仲國秘伝集上巻 第五

陰腫陽腫風腫ニシテ見分法

一 陰腫事元内ノ腫物ニ成腫ハ色ト
陰腫ト云ハ傳同前

一 陽腫ト云ハ陰ハ色ニ限リ陽ハ是ハ皮肉ハ共ニ腫ル物是
風腫ト云ハ内ハ皮肉ハ腫ル成ル色ハ赤ク成テ乳汁
ト付ル肉ハ腫ル成ル風腫ト云ハ傳同前

則風大風陽風毒風ト云ハ分法

一 則風ト云ハ俄ニ起ル〻ル百ノ病ヲ成ル

一 大風ト云ハ俄ニ起ル〻ル百ノ病ヲ成ル身ノ根ニ汗出間
ハ内股ノ毛ヲ抜テ出ル大風也

一 陽風ト云ハ紫ノ如ク成ル以ノ毒ニ風ト云ハ
冥ノ如ク成ル只偽ト云大風別ノ風ノ如ク成ル
陽風也

一 毒風ト云ハ出ル所ニ物ヲ毒ル毒風ト云ハ

一 早風ト云ハ毒風ノ如ク成ル物ヲ毒ル成ル

毒腹寒シ痛熱シ痛ニシテ分法

一 毒腹ハ物ヲ食ル〻ハ腹ハ冷ル〻ハ腹ハ

一 毒ニシテ七ケ月ニ寒熱ノ病ヲ成ル成ル傳同前

一 熱ノ如ク七ケ月ニ成ル成ル傳同前

一 [illegible]の申し事 [illegible]病申しかうと云て [illegible] 病相熱
のんひつ [illegible] 申しと名付く相熱のんひつと申にてそ
相熱の病としてはさむ傷同前

血尿古血つてつかへ法事

一 血尿し事 [illegible] 出へ血多しつ傷同
一 古血し事 是もかんよ血尿しまして出へ傷血多しし

仲國秘傳集上巻之廿六

淋病十三之次第

一 水際病 一 火毒 一 尿結 一 石淋 一 骨淋 一 羅門病
一 淋素結 一 羅腫 一 氣淋 一 閉癃 一 下熱 一 肖病 一 袋病

水際病火毒ツてつかへ法事

一 水際病事 [illegible] 子鶏卵出へ病
のかつかもつく [illegible] 出へ事

一 火毒と云水際病の上に出て [illegible] 病いちこのとくぬけ
出て [illegible] 不限ときとめもある迄

尿結石淋ツて足を法事

一 尿結し事 [illegible] 腹とうめうやロ
ちつ [illegible] 尿結
一 石淋と云尿結のとく [illegible] 出て [illegible]
と云とくく [illegible] 尿結

一 労淋と云尿よりこと淋の尿と云ふ腎尿といさんやうの一・腎尿の
あつさうの出て色いろ〳〵歩こたゝ〳〵こ尿といさんすさ
しく腎腋とそとる尿れるもこたゝ〳〵会こ〳〵
るゆへ膿淋とも云へ

一 霹靂淋と陰出て毒あり色も労淋のこゝこと生色を立すく
こゝる時もこゝりこゝ出て尿といさんとすれ尿の色
色とこゝのこゝの陰と知へ

猛毒法霹靂淋の脈こゝ人名法

一 猛毒法事一色いこゝのこゝ口の色こゝる〳〵腎云さや
腎こゝる尿こゝり赤腋二乃こゝる色根こゝる色こたて有之

一 こゝの内脈出こゝ熱小号〳〵ほや口こゝる〳〵色色多こゝ以
た根こゝ色こゝこゝの内の脈わこゝ知へ

仲國秘傳集上巻第七

氣血病下熱ッ下見分法

一 氣血病し事一色い間こゝる脈やこゝいッ大こゝ色〳〵口佛間
一 間病こゝ云ハ五二のこゝ有こゝ氣こて五色ハ指の法あり
色こゝ人こゝ云ハ口佛こゝ

一 下熱こゝ云ハ人の行ふこゝ法多ッ一こゝ色ハ

もとより之を下痢と知るべし〜偽り〜

肖疝袋癢の事 下見合法

一 肖疝の事 色〻〳〵 宗法にだらして ふる世癢とみて
そもふかめ之を色と云 肖疝 穿わきを口ハせそ〳〵メナ色ふくろ
偽云只ふる世ふあるふ〳〵わきふると肖疝と知るべし

袋癢の事 袋癢と云も大〻肖疝色出る色也世

一 そもひと入部に未ひろく底さし 偽云色〻癢ハ
ゆふりの色ぬけ色〻皮膚 海毛入〻 少〻穿わきふる和
之を色と袋癢と知るべし

邪病云病に治法

病 針過 毒食 肩按 橋引 骨折

一 病に事 射疝法さ疝ハ病ハ病ハ 冬ハ二月
かゝも養ふ色と 病と

一 針とうめ法 色ハ筋ハ これすゝ針のさ色筋ふ曲り 表ハ
うゝすさ骨おゝ色 骨おゝ色 之をめるハ 共用ハ色
ゆりふけ色ふけ色ふけ色 そもあゝ色ハ二本 活色の
色ふ色ふ下色 ふる色ハ 皮やふ色ふ色 色

皮ふ色ハ色

毒食に変

一 毒食ふ色ハ色 毒食ふ色ハ色 毒食ふ色ハ色

一 [illegible]

一 [illegible]

一 猫糞 鶏糞 蛇糞 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

仲國秘傳集上巻第八

本病之次第

一吐血 一搖病 一大癩 一筋癇 一浮結馬 一内損

一吐血事 [illegible]

一搖病事 [illegible]

一大癩事 [illegible]

の必胃の気さし出ん之口傳同前

一 筋痛し事 元も筋のゆる弛ぬべのとくつかいとて
毒熱とみし息急迫 元い鼻すかうと長息如ふちうと

一 沒法る事 元い薬とゆ水のとくふいるし赤
つとりそけすと中ちうと迫上実し胸ちはるふちう
しとうと迫薬とるさんとすると尾ちせいちのとくちうふ
んの出産ちれ赤い安し

一 内損し事 元い胃腑大腸やまとうとやくんとちいん
ちうふあつさあと用ようもとちうと云いあるい
ける薬とあるて用だりて胃腑ちれ必閉ちれ息くさく
ちうもちうの内損と云い腑胃ちうく少食事不消則ちう
喝ふいしまあるさると迫

血病ちケし次牛

一 癲狂し事 元い気ようの血ちれ出て定とちうて志
ちちちち死ス一時ちうもちうひ息出則ちちあり卒るよ
つと狂ちちちちふ狂るだりいうんそちもちと又むけけ
て乃ちあるもちうと狂ちるとんと云んれ氏三巻めふらん
あつよも云は病志けちとい志けつと云迫

一 発病し事 元も俄息急ンと云ふりきちりとるち
ちみ迫い出川のいちちひるくまとひちりてか世さいと

[illegible]

一 血陽[illegible]事御[illegible]
問[illegible]又[illegible]
云問[illegible]血陽[illegible]

一 腎[illegible]腎[illegible]
[illegible]

一 [illegible]中風の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

仲國秘傳集上巻 八巻後
中國秘傳集下巻 巻第一
結馬茶二服し次第

一 上結病出一日[illegible]内[illegible]茶 牽牛子[illegible]
[illegible] 牛膝[illegible] 右細末[illegible]
[illegible]

一 上結一日[illegible]病[illegible]板[illegible]内 大黄[illegible] 芒硝[illegible]
牽牛子[illegible] 結膈[illegible] 右細末[illegible]

一 上結病[illegible]

ゝう血と出ゝ時は煎薬し事　柘蘆根　射干
春に合て熱膿の如ゝ泥胡の病に用

一　中法病出一日の内に用薬し事　牽牛子　杏仁
巴豆　毒たゝ　二十粒　右細末にして用秋冬は
湯にて二度に分て用る事

一　中法二日計に成て用薬し事　射干　桃白皮
ゝ　ゝりこ　牛膝　右細末にして用秋冬は
膝の英にて煎て用る事

一　中法或は十日あゝり病に成て用薬し事　熱膿　人參
下　干姜　柘蘆根　右細末にして用る事

一　下法の病出一日計に用薬し事　温石　牽牛子
巴豆　毒たゝ　桃仁　梅干の肉　右合薬にして桃仁の
汁に加て常に七箇に用る事　丸箇に用可用
にて七箇ゝ

一　下法にて出一日に百もゝ度ゝ時に用薬し事　巴豆　毒たゝ
久良浦の粉　人參　桃末　庭床　牛膝の英にて汁
にて用

一　下法の六日計の病に後癊治し事　梅干肉　ゝ
梅干ノ三十　ゝ　燒塩　右ゝ押合て丸ゝ

の汁ゐ和もくるこゝとて竹の内ゐを立すまとをさ七寸五厘に
加之中皮革ゐ納こ入るゝ者て竹竹と定七寸五厘深を
て同こ竹ゐ中へ入れとゐ木と切りて長さのそゝのとさ
たゝて竹のもとゐ竹業と入業と腹中へ竹さ入庵一竹ゐ
さゝ入木のゐゐ出ん穴にさゐ竹と木と一分に切る庵一別
とこゐ也えい中結もゐ一中結の時皮革ゐ巻くこと之ゐて
ちさゐて二寸ゐ入庵さゐ利

内弦之事

一 内弦ゐ竹業之事　森安冬　西海子の郷ゐ合吉
ゐて二百丁内ゐの内弦ゐ出すゐゐ結ゐ巻く川芎ゐ
ゐ入ゐ木のゐゐと加て丁内

一 内弦業之事　森安冬　橋のゐゐ吉ゐ
右合業ゐ高て丁内川内弦ゐ森内て丁内ゐ丁ゐ
ゐて抜い良美ゐ入西海子　川芎ゐ内て美ゐ結て
丁内

一 内弦の業之事　竹も切ゐ也い内弦と加ゐ業ゐ西海子ゐ
糊　牛膝　松の根ゐ高ゐ業ゐ鋼ゐ高ゐ丁内供ゐゐ
入て丁ゐ蒜ゐ加ゐ根ゐ切ゐ川芎ゐ内ゐ入て丁内
ゐ入ゐ牛ゐ合ゐ内ゐ丁ゐ竹ゐ内弦業ゐ塩川弦と
ゐ糊ゐ加内指引ゐ以ゐ美ゐ一内ゐ会内弦ゐ結ゐ利て糊

[illegible]

仲國秘傳集下卷第二

腎虚病付五百丸内療治之事

一 石會と云て七丸と書たる丸薬にてかたちもまさくらまたるやうに腫たる虚と云てあるを腎虚と云

八百會と云腫ともしたる又虚熱ゆみしい悪熱あるハ血脉

ひたく腫ものハ腎たるうの血と会あるを出産の薬の事

干蛤蟆 紫蘇葉下 赤小豆下 那て七交にする 毒服

味をすして会合ハ血るなるべし

一 腎虚ものも苦しも然て妙法療薬の事 七丸と云

炎さあるやうなる虚て秋のもとあると百會と云て乃

人よりもかこもとうけしるるべく腫ものとらあるの石り

ものそうけて腫ともしたる虚腫ものと云ハ宜一人二寸

にこもあるて腫ものハ百ひとしる事也薬の事

腎虚ものハ苦薬下 桔梗下 干姜下 山薬 右四味

毒服味ハ如(ハ)ものとうの

一 腎虚二月三月ものハ後療治の事 百會

とさ七丸ハ百薬ものハ腫大虚腫ものにあり

ものハ盛ものとうの虚ものとうの七丸ものとうの

何茶事 荊芥子なる 山茶なる あく声ふらく なる
半夏ニテ 右細末〆山のいもおろしよくまぜさして
毒服味ヲ去りのへて 煎薬ヲ一貼ニ一銭入合 又貼銭ニする
よく之

脱肛之事

一 脱肛といふハ根本肛門より肺臓の悪寒を受大腸ニ
寒をうけ冷のあやまちに大腸冷たりて胃腸腹冷なる所を
かゆうゆへ下る脱肛と病、飢虫と成日比おなじ女薬を食
おりきニ下ル 香気ゟ下リテ下 又黒焼シテ下 蒼朮ニテ 黒塩
ニ下 右細末シ所にてよく 一貼ニ一銭入合

一 脱肛もわるく物ならず療治之事 薬云 是も七ケニ
灸ニ 右背骨のよく撰を杖のまゝちしとすへてもよす
へ之後 茴香 甘草 茯苓 塩真乾是と同じ
英ヲ七日程飲まする也

一 脱肛二月三月も物さる時ハ療薬ハ前のよくし也 茱ニハ
西海子黒焼十銭 川芎七銭 黒塩三銭 茯苓十銭 右
細末シ 甘草を煎シてまぜ合せまぜて 煎薬と一貼ニ一銭
入ル事七日飲也

下血之事

一 是ハ肝臓の気を物附腰より下乃気脉之際

治に平治腎論これと為すあてこうちにて灸
と志こうて灸をとへ〜あるし〜扁鵲のうの用とり
さうて灸をもて後藤ようと扁鵲とのて（さ灸せまうう
墓を　くこ　ゆ〜のも　ゆうかの法　枝のも　方也
むさゆ柳　在事　ゆ　ゆうて灸ゆ腎ようとうく
ゆて在し〜て後行方とあてあるけるくこうけていそ
こさもとうを灸へ〜を灸ゆ灸ゆ灸ゆ灸ゆ灸ゆ灸ゆ
けあうりを〜と為をしめ針灸とする中時針
灸ゆ世を業をうりて治をと為ハ百日も為ハ二百日も
為る時ハ針灸業をも治をへ〜て後ハ用業る事

一　眼病に限る業をする

一　打用のう痛治ハ為ようを用のうとひやも
〜て後ハ（さ業し事　こう　をこへの正為
ようを　食のい右相抜ハ梅部検の吉にくの汁
ゆて行をくとをこうをもけをうて寸在〜服
豚ようをうと血ハいをて（
一　そこひの痛治事もハあく祇用をゆて後
らと灸をへ〜て後用ハとひさへ〜て乳灸為わ

てこ道とひきあはせて湯をすゝむ薬の事 生脂
ト せきうしト いの甲下 志んやか 右細抹少せいろう
のうひて かの月ありて あひくさまへし

一 うきひれ療治之事 これハ腿膝さしふさいけつとひ
たかくをまきつけへからうちを血をとさまへし 薬ハ明礬
黄蘗 たこくの黒焼 各等分に こひのさのころの事
まのひこひのさの事右細抹少帯さ寸へし 口傳
あり

一 むし月ね療治之事 白牛糞のくろさ木の月のうろ 赤
筋ッきりて是を焼すさ灰ろみる事とりねつるゝ日をあて

花し薬ニハ石灰のいたこくの黒焼 黄蘗 白石 明
猶少加ヘ 細抹ノ 檜の木とかくの汁にて ゆるめ同のあ人
とし入上ととも練りてゆひてとろ花し 一時ほとして手經
おもう晩てあかてひや共へし 口傳有之

仲國秘傳集下巻 第三

瘡之療治口傳之次第

一 おろしのすき薬のさらいおくひや共へし 付薬
薬ニハ 一楊梅皮 一薫陸 一加しほ 細抹ノとも
らうをとすりて ゆそのあてもろしかき 花し

一 陵瘡の療治之事 花ッハまへ前皮ニよひ薬ハさし

てこ後若幸と葉ゝ絶くあるひて付毒と葉ハ

一西海子ハ三錢 一天南星 一鶏肝實 一大の蔵

ゆ毒人ハ付毒

一

血瘡し瘡治し事 葉ハ 一巴豆 壱ツ 一西海子ノ

三錢 一茯苓 一夜明砂 一黄蘗 右細末ニ米の

ちいて●これをもゝ瘡ッさ〳〵ろして投葉ッと

〳〵毒 七日ごとに〳〵あるひて根とろ出とい〳〵

葉ッ付毒 〳〵葉ハ 一ろりこの三錢 一麻角霜

一年ハ皮三錢 一大のくらの三錢 右半分ニ細末ッ付毒

物ろ〳〵ひ人ゆ毒ッ葉ッ毒 〳〵ハ付毒

内葉ハ事

一西海子三錢 一ゆりと 一粉そと右ニ細末ッ付て

毒

一

左右門瘡しの葉ハ 一つろ一錢 一西海子霜一錢

一鯨ハ干肉の錢 右細末ッあと右の角ゆ毒人ハ

ハれ付てのちゝ金葉ハ事

一大のくら 一年ハ皮三錢 右ゆ合付て付毒

息陽の葉ハ事 一石菖蒲 一茅根

一ハ皮の錢 右細末ッ毒ハ菖の根ッ水ハてゝ

付て投葉ハ一日半錢入て毒ハ筒方〳〵付て物を出ハ

ちと煎ずるくすり之事

一 京て息絶る者蘇る事

女の乳ひとして一椀垂色〻

一陳皮 一青皮各五錢 一蓮肉 右細末に水にて一貫ぶ

錢〻一文〻ゝ貫匂〻文の極熱〻用の湯の水にて用文に

用入て早麦湯にあらてふ色〻口傳

一 ちさの葉し事 一苟葉一握 一椒根一 一松線一握

右細末に同松の葉し煎じ煎て一貫ぶ錢〻一文〻貫

匂〻〻ちさすて熱を息あ〻〻定ちれぬる草とう

ちもしく女のちち〻て匂〻〻

一 癇馬し葉し事 一苟葉一握 一松線一 一百葉一

一椒根一 一指蓼根一握 右細末〻笠のちち〻匂重

一貫ぶ錢入也

一 利尿するし葉し事

一苟根 一湯五 一さゝ乳のちの黒焼 右細末に去

文の湯水にて匂ぶ蓼〻汁にて一匂一貫ぶ錢入て文〻

五貫匂〻〻 猫のこゝろ〻ゝとのちるると思時如〻

ゝ拔こ不加療治しゝゝうけつゝさゝ〻ゝ

〻〻ゝゝゝ血〻絶冷ぬ〻〻〻〻〻

ちとあげるくのこゝろ〻て二度はゝ〻ゝ〻ゝ

よろしくそのうきあけてうきを押ゆる事ふるはき用意之

一 瑞授し薬し事 元も紫のくさ也 出ひ也

授薬の付 一 紫の花の実 一 麻黄 一 半夏 一 麻黄

三焼 一 鹿骨 一 年中の古釜 一 松脂 猛油 一 ろう

一 合授薬入て舞いはさまあるもろ所る時 五日

の色とえて授薬ひさくとろうさんさくさくと又

ゆくるる時うかひの先てぬて底見こと同移り薬さう

のくくに燒付 皆とちて色黒しあるふるる也

へくくも年草いろ沢の色りうる時付加るるくさる時

くろへ色くくも

一 則実付薬こと 一 干姜 一 白朮 一 乾くく

右調薬毒服味とあるてまくくて荷ごと陰入ごと五荷日よ

こと七日分へ

一 則冷の薬こと事 一 桂心 一 白朮 一 紫蘇葉

一 根殼 右調薬あるとめる湯てくくて一荷ず陰入ごと

荷分へ 四季の病ごくくもくくこと

一 色九くくの事 一 温石 一 南天竺の根 一 三姜 一 美薬

一 苦草 一 杏仁 右調薬あるて潤水てもはくて服

一 付 [illegible] 陰入色 一 付 [illegible]

一 牙関ノ薬ノ事 一 白檀 一 桔梗根 一 紫蘇葉

一桂心ニ下 一白朮ニ下 一毒脹味マス 右細抹シ用ゆもし難キ者
時よりて飲之 一匁ニ一銭入一服ニ五分も七分も用だり
て可飲々様の者也とふうとしひや〆茶ニて可飲之

一

中皂の茶之事
一荳朱 一縮砂 各ニマス 一白朮 一桔梗 一ら川 香各ニケリテ 各マス
一石見川 木ニ銭 各合末〆用ゆて
一匁ニ一銭入一服ニ五分目ニ一服飲々アに向日可用也

仲國秘傳集下巻 第四

八ケ不合之治事

一

上實の不合之茶之事
一温石 一桔梗根 各マス
一志んけ人さいニマス 右細抹〆さいろうと薑〆一服一匁ヅヽ一

銭入一服ニ五分目一服ツヽ用べし

一

麝香之不食之事
一牽牛子 一大黄 一黄芩
一桔梗根 右細抹〆手際とよりてなまものへ一匁ニ一銭入
一服七分も九分も十二分も馬だりて飲べし

一

宅乃不食之事
一大豆皮粉〆マス 一虫豆花ニ下
一陳皮マス 一白朮下 右細抹〆いろしひきいろうして試
黄〆一匁ずつ銭入一服ニ五分目ニ二服可用 凡紙數〆不
食志けし

一

悪瘡之不食之茶之事
一白物下 一牽牛子
香各ニケリテニ下 右細抹〆さいろうと黄〆一服ずつ一匁ずつ銭入一服十分可用

一 打撲して不食し煩ふ事
一 温石一つ 一 綿三方下
一 牽牛子一ト一ちあけひと 一 蕎一つ 一 巴豆一粒
右細末にして二つ共に黄連煎湯に合て二服
と成べし

一 動悸して不食する事 一 大黄一つ 一 芒硝一ト
一 黄連一ト 右細末煎湯の水七合に煎て五度
入て下用

一 すべて不食する事 一 山ちく 一 毒服味 一 柏蔓根
右細末にして二つ共に煎じ二度
用ひつべけれども若幸にして加

一 肝臓して不食する事 一 ちくしひ
一 黄芩 右粉にして二度に煎じ飲ませる

仲國秘傳集下巻第五

一 腎臓の癒治する事
一 干姜 一 黄蘗 一 麻茸 一 鹿のひげ
右細末にして蜜にて丸にして指の大さ
あるべしにて白湯にて毎度一丸宛用ひ
一 皂莢 一 麻角 一 黄耆 一 天蓋 右細末にして
内服する事 白湯にて毎度一匁宛用ひ

一 陽証に用る事 一鼠糞 一大根葉
一玉人げんこい 一大黄 おうこ 細末 酒にて用ひる 熱を
下すべき為 茶にて一服いつも一服に成て用ひる
茶にても 一鈴草角 一皂莢子 一親皮 一大
加減のごとくもの腫るるに付ところ〳〵常のごと
くすべし 一百合 一洗角子 一黄芩 陽証に用る事
一大麦 一苦こふ 一くこ 一地黄 一洗角子 一金
茶に為 痛所 両方 右
風腫に用る事 一先にかきて陽に用る外金茶に付
一

皂莢子 麻葉 右四星に加て付 一先熱を冷
陽にて洗に成 茶に付 外に根ありてさらに麻角を加
根中に加内に用る事 西海の星 川芎 ふき
右四星に加て一服 一則風に用る事 杏仁 下 苦参 下 大黄 変
材色 楊梅 下 合 苦酒 七 一服に成て一方 為
或は七 もるごとくして一服つゝ 血とる
一風の用る事 拾薬根 下 葛 下 皂莢 黒焼 下
細辛 闘の為にして一服に成て一方
一陽風に用る事 十姜 三服味 杏仁 乾 細末

去痰ハ那ルテ可用然ハ湯ヲ用ヘシ

一 急風ノ薬ノ事　天南星　枳殻　香附子　厚朴
車前子各等分　辛夷殻ニテ合薬湯ヲ用テ煎ジ入ル分量
三度ニ可用也

一 早風ハ前ノ急風ノ薬ノ如ク白朱ノ変ノ如ク相用ル

一 歯脱ノ薬ノ事　村立各等分　若草ニテ　良香ニテ　黄蘗ニテ
右細末ニシテ湯ノ水ニテ時々ツヽテ用ヘシ　胡麻油

技薬ヲ加テ用ヒ上薬ヨリ

一 急ノ病ハ　干姜ニテ　本香ニテ　辛夷殻ニテ　右細末ノ一分ニ煎
入テ度々用ヘシ

一 歯ノ病ハ　柏葉根ニテ　葛ニテ　湯ノ水ニテ用ヘシ

一 甲ノ虫ノ病ノ薬ノ事
各等分　厚朴　本香　村立各等分　白朱　苟薬　良香　枳殻
合薬ヲ湯ニ一分ニ煎

一 しノ虫ノ病ノ薬ノ事　茴香　丁香　良香　白朱
各等分　寛川　十六煎　右合薬ヲ湯ニテ一分ニ煎入テ可用

一 血腐ノ薬ノ事　紫檀　樟脳ニテ　白檀ニテ　白朱等分
右細末ニシテ白水ニテ用

一 右血ノ薬ノ事　温石等分　茉莉花　梅干ノ黒焼
等分　右細末那ルモ湯ニ付テ可用

一　水犀瘡に薬し事　白礬　胡椒　おなじく細末　垣遠
薬にまぜて皮に掬合て付へし　一付にて癒と雖
共血とまりて出ざる時白胡椒と礬とを混て付へし
そこに垣遠の薬まぜるとも薬付ると上に又付そえて
ゆ絞てゆいて垂へし

一　火傷に薬し事　ゆり　松脂　乾漆　焼こ　瘡
薬　丹礬　鮑貝　右薬分に合て付

一　原瘡に薬し事　白礬　昆布　黒焼　二両　干姜
細末生絹袋にまぜてふりかけてふへし

一　脳漏に薬し事　干麻　茱萸　茯苓　おなじく合葛
ゝ　ゝ　一箇　二箇　入　七箇

一　さやの内に瘡出る薬し事　白礬　大黄　乳瘡
煎じ　細末　一箇　五箇　七箇もるごとに内
合て付へし

一　蟯虫に薬し事　螺の殼　乾漆
もちゐ合て那ゝ　ゆりの根　九ゝ上に付へし　内薬し事
大黄　牛膝　細末　二箇　二箇　二箇
付へし

一　さやの内腫れ出来瘡にさしてさや口腫れ
ゆあり

茱萸 白朮 白芷 温石下 大黄下 大根子 麻下
右細末にして一両二服入つ度に茶とぬるさてさい
しして後天南星 白朮 合て付へし

仲國秘傳集下巻第七

一 氣病に茱萸事 昆布 苗香下 萆子
十六味 細末にして付へし

一 風病に麦 大黄 英茶 英連 名香 合少沉香
加て右如にして用

一 肩病の茱萸事 うやさしくしてこれ天南
星少付へし 而うやさしくしてとはさして英寸分入

一 袋瘡に茱萸事 黒豆 麻草 英藥 鈴半角
右に細末蓮肉にてふれ瘡の上に入る瘡の
口にしてあて 後に手湯にて後付茱萸大歌
の黒豆 天南星 細末付へし

形病に瘡に茱萸

疝針過毒食 白桜 桂心 骨析

一 村疝に茱萸にて疝にうさんに茱萸事 皂莢子
下 天南星 地骨下 麻角子 細末 醤の油
にて右加減 ここにて山いもとけにして それて 瘡口へつき
入る

一 針とかゆのどの見ハ紙にかたむ又骨まあきらかなる色し
薬ニハ空豆平仁とを小便ニて付候も常のごとく
一 毒留気の薬之事　桜花　林千九里薬　各のとき
あかに細抹メ紫蘇　荒太芥たらひ吸るには生姜とまぜ
て水茶ニて付べし　又用蛇ニハ　睡猫の屎　鶏ノ屎ヲ吸ニかくるには
ふしとる茶ニてのべ付薬用べし
一 肩接るゝ薬之事　干姜　蓮肉　等分に合て内へて用
一 瘡川れ薬之事　松緑する　荊芥する　ふさのとする
あつきの花ニ下　右細抹メ用ニて付べし
一 骨折薬之事　干姜する　すて下　竃ノ額の土下

細末メりはゆしと吸柳のすとおきこすのどにとまらの
上ニ付薬ヲちらしてをしつけてとまらヌ柳ノ皮ニて巻
て置べし

仲國秘傳集下巻才八

一 吐血之薬之事　白檀　紫檀ヲ黄メ又藤ニ味と用
一 按るさゑやの薬之事　色も五臓六味ヲ閑水とまぜ
ぬりて付べし
一 太きつぶのよ薬ニハ　鋪つする　苟薬する　植柳子下　植
薑根ニ下　右細抹メ女ノ脈ニ付用
一 ?薬之事　鍋?　牽牛子各する　植薑　植

大炭各下 細末にして用ひ

一 閉損し茶し事 串柿を篩末下 右和

持にして用ひ水といたし茶を

一 癲狗し茶し事 温石 石見川芎藭各下 果下

沈香下 本香下 訶梨勒下 蓽茇 馬血下 右煎

して水茶にて用ひ

一 乳病し茶し事 人参下 訶梨勒下 人乳

又 香仁下 右煎にして古解毒とまりて清めてその上

茶に一匁三服入一文五匁日に六文ふる色

一 血閉し療茶し事

中六脉の血にして上にうつりて見てい扁鵲に水とうけ

給まへ茶に根 葛根各又 栝蔞根 又合

茶に石菖川芎加へて一匁三服入一文五匁日に二文

釣多の者用ひ

一 腎虚の茶し事 白檀 麝香 沈香 末

香下 川鳥 乳下 細末にして一匁三服入一文五匁用ひ

一 刈中風し茶し事 人参 陳皮 きいろう 赤茯

して細末いろう英 大黄 甘草 用ひ

仲國秘傳集上下十六巻終

天文廿
五月吉

仲綱

幸鶴新右衛尉

坂内孫右衛尉殿